

平成27年度 図画工作科教育にかかわる現状と課題

部長 細 井 一 貞

1 図画工作科教育の動向

(1) 郡市研究会における研修の状況

21の郡市それぞれが創意工夫し、講演会（5地区）、授業研究会（10地区）、実技研修会（15地区）、作品鑑賞研修会（6地区）、美術館活用研修会（4地区）を実施し、図画工作科の振興と指導者の資質向上に努めている。その他、夏休み小中学生写生大会（1地区）や児童生徒作品展の実施（8地区）等にも取り組み、地域の図工・美術教育の振興に大きく貢献している。今年度の特徴として、「授業研究会」と「実技研修会」の増加が挙げられる。内容としては、小学校や中学校での実際の授業を参観し、研究協議を行うという、「目の前の子どもたちの姿から学ぶ」という前向きな姿勢が感じられる。また、指導につながる技法や技術に関する研修も重視し、図画工作科における「教えること」と「考えさせること」のバランスや関係性を考慮していることが伺える。そのことが、各学校における授業改善につながっていくものと考えられる。

今年度は、11月に「新潟県美術教育研究大会（上越大会）」（新潟県美術教育連盟主催）が、妙高市を会場として、県内各地より約140名の参加を得て開催された。「かかわる・かわる・つなぐ造形教育」という研究テーマのもと、公開授業や提案発表を受け、活発な研究協議が行われた。講演会では、CMディレクターの中島信也氏より「コミュニケーションをつくる～創造する力と想像する心～」という演題で講話をいただき、美術教育の大切さを再認識した。また、糸魚川市立青海小学校では、新潟県小学校教育研究会の指定研究（図画工作科）のプレ大会が行われた。「かかわり・つくりだす力を培う図画工作科の創造」をテーマとした実践研修の中間発表会が開催され、公開授業をもとに、活発な研究協議が行われた。講演会では、横浜国立大学の太田義一教授より、「図画工作科における子どもの資質・能力と授業づくり」という演題で講話をいただき、子どもの資質・能力を中心とした「見とり」と「授業づくり」のあり方について研修を深めた。

(2) 郡市研究会における研修の成果

どの地区でも現行学習指導要領に準拠した研修を実施している。キーワードとしては、「共通事項」、「言語活動」、「鑑賞の重視」である。加えて、次期学習指導要領の押さえどころである「資質・能力の育成」に関わる内容が盛り込まれてきている。県美大会や小教研指定研究では、「ICTの有効活用」についても積極的に取り上げ、学習ツールとしてのタブレットの活用を試みた。その結果、子ども同士の学び合いや表現力の向上に成果が見られた。今後、授業におけるアナログとデジタルの関係性や美術教育におけるICTの有効性について研究を深めていく必要があると考える。

2 図画工作科教育の課題

図工・美術を専門とする教員が少なくなっていることは事実だが、小学校においては、すべての教員が図工の授業を指導することが基本である。各学校の図工部員だけの研修ということではなく、必要感をもっている教員すべてを対象として案内を周知すると共に、各校の管理職は、希望する職員が参加しやすい校内体制をとっていく必要がある。

今後ますます、限られた授業時数の中で、児童が自分の思いを生き生きと表現できる学習活動を展開するための題材設定や教師の支援の工夫、小中学校間の連携を意識した研究活動・授業交流が望まれる。